

石田教授は「孤独や孤立が問題化した

45歳、子育て中の4児の父親です。常日頃、子ども達には情報化社会の中で多角的で本質的な情報を得るためにも本を読む習慣を持ってほしいと考えています。先日、子ども達を連れて、今月末で閉店するマルサン書店仲見世店を訪れました。図書館とは違う感覚で本に触られる環境。数多くの本を手に取り、それぞれが気に入ったものを購入して帰りました。

この環境が続いてほしいと願っていて、ポリシーとして、どんなに待つことになっても本はマルサン書店で取り寄せて購入していただき、読んで下さいました。私は、その考えに共感し、絶版となった本以外は地元の本屋で購入していたのですが、その店は閉

街に本屋がある風景

飯田理一郎

情報化社会が進み、私達は様々な情報を容易に手に入れることができるようになりました。本に関しても、様々な方が本の内容を抽出した文章や本の内容を解説した文章をインターネットに投稿されていることもありますが、実際に本を手にとり、簡易的に内容を知ることができるようになりました。

もちろん私も、この環境の恩恵に浴しています。ただ、それでも本を購入し手に取り続けるのは、前記した、今は亡き建築デザイナーの思いもあるのですが、デカルトの「方法序説」の一節に共感したからというのもあります。

「私の本を讀んでも、私がこういう風な考えていたと言わないでほしい」デカルトのこの願いは、人間の本質をついていきますし、本を通じて時間と場所を飛び越えた、著者と読者の間に生まれただけで精一杯という声には、読書が苦手だった私も共感できます。

ただ、使い慣れると日本語の文章は非常に読みやすい。漢字の羅列だけで、なんとなくの意味は推察できますし、ひらがなやカナカナ、漢字と表記を替えたり、常用外漢字を扱ったりすることで、情感を持たすこともできます。

アルファベット24文字と数字、多少の記号的文字を覚えれば使えるのに対して、ひらがな51文字、カタカナも51文字、算用数字だけでなく、表意文字でもある常用漢字2136字、漢字に関しては音訓の読みもあり、熟語もある。成人までに日本語を習得するの文は全ての文章がひらがなで書いてあるとイメージしてみても、視覚的に違っていて、表意的に文章に情緒を持たすことは難しいと思います。また、文脈で推測できるにせよ、似たようなスペルは気を付けないと誤読してしまうこともあります。

世界的に難しい言語と分類されている日本語ではありませんが、習得すれば、これほど便利な言葉はないと感じます。最近、本を読む最良のタイミングは子どもたちの時ではなく成人してからなのではないかと感じます。茶道や武道において、まずは「型」を重んじます。型がしっかり淀みなくできると、自然と所作に心が入るようになります。世界観を感じることもできる。成人までに日本語の型を覚えたならば、本を読むことで、文面だけでなく、作者の思いや背景、文章から広がる情緒や世界観などが自然と見えてきて、本と心が一体になるような感覚を得られるのではないかと感じます。

（会社役員、原

「店頭」送買取